

平成24年度 学校評価一覧シート

教育目標

①発展性のある学力と高い知性を身に付ける

②正しい判断力と豊かな情操を身に付ける

③強い体力と逞しい気力を身に付ける

本年度の重点目標

① 品位ある西高生
時を守り、場を清め（身の周りをきれいに）、礼を正せ。
・時間厳守 ・挨拶の励行 ・人権意識の発揚 ・環境美化

② 智をみがく西高生
・高い志と強い意志 ・意欲の涵養（自己啓発と挑戦）
・確かな学力の育成（基礎基本の充実と思考力・判断力・表現力の伸長）
・授業・補習等への積極的な取組

③ 逞しい西高生
・文武両道 ・学校行事への積極的な参加と取組 ・疾病・傷害の未然防止
・不登校生徒への早めの対応→教育相談の有効活用

※達成度は4段階で評価する。
4：大変よくできた。
3：まあまあできた。
2：あまりできなかった。
1：全くできなかった。

愛知県立一宮西高等学校
平成24年2月

項目	本年度の重点目標	具体的方策(名詞形で)	中間評価	年度末評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
学校行事 (生徒指導部)	式典や集会を通して品位・品格を高める。	・式典に相応しい身だしなみの定着	中間評価は実施せず	品位のない身だしなみで式に臨む生徒は少ないが、教員に指導されるまで身だしなみを整えられない生徒も存在する。	3	式典だけではなく、日常的な身だしなみ指導が必要である。
		・校歌斉唱を通じた西高生としての自覚の向上	中間評価は実施せず	教員の指導を意識している生徒が少ないが、1年生の音楽の授業での校歌指導の成果が現れているようである。ただ、校歌を歌う機会が少ないので歌詞を忘れてしまう生徒が多く、1学期に比べて2学期の校歌の音量は小さくなっている。	2	音楽の授業での指導を継続して欲しいとともに、集会などを利用した意識の向上に努めたい。
	PTAとの連携の推進	・PTAとの情報交換の充実	中間評価は実施せず	アンケートの結果から保護者の9割以上の方から肯定的評価が得られている。今後とも、支部別PTAや理事会などで情報交換に努めたい。	3	保護者にはPTA広報紙（くぬぎ林）などで情報を発信し、職員には会議などで報告して、関心をより一層高めたい。
学習指導 (教務部) (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	学習意欲の喚起	・3年間を見通した教科シラバスの積極的活用	中間評価は実施せず	4月中に配布・説明できた。学校評価アンケートによれば、4割近くの教員・生徒が積極的な評価を、8割以上の教員・生徒が肯定的な評価をしている。これは、教科により進捗表や小テストの予定表を兼ねたものであったり、考査から考査までの短期的なシラバスや教材ごとのシラバスなどいろいろな工夫がみられるようになったからである。	3	今年度内にシラバスの改訂を行い、次年度の最初の授業で配布・説明ができるようにする。また、更なる工夫を行い、生徒のみならず、教員も参照せざるを得ないものにしていきたい。
		・分かりやすい授業の研究	中間評価は実施せず	5月末から6月始めにかけて10日間の授業公開を実施した。教科会においても例年に比べ活発な研究協議が行われ、観る側と観られる側が相互に刺激し合う緊張感が新鮮であったと概ね肯定的な評価であった。また、1学期末に行った生徒による授業アンケートでは、生徒の的確な評価により自己の授業を振り返るいいきっかけになった。また、多くの教科で項目ごとの割合を数値化し、次年度以降の比較が可能となった。	3	授業公開では他の教科の授業も参観して、生徒がどのような授業を受けているのかを把握し、今後の学習指導のみならず生徒指導にも役立てていきたい。また、生徒の授業アンケートでは、項目毎の割合の集計をして過年度比較を積極的に活用したい。
	・発展性のある学力の育成	中間評価は実施せず	一昨年度より掲げた目標である。昨年末までが生徒の受身的な学習をどのようにして積極的な学習に高めていくか模索していたのに対し、今年度はそれを数字でも実感できるような学年と連携しながら授業改善、教材研究、教材の精選、課題の工夫、教科による研究協議等行う努力が見られた。	3	成果がなかなか数字にあらわれにくい内容ではあるが、多くの教員が様々な場面で実感できるよう、生徒により一層働きかけ、生徒の知的好奇心を引き出すようにしたい。	
生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)	安心安全な学校生活に繋がる道徳意識の醸成	・生徒の自己防衛意識向上に向けた積極的な啓発活動の展開	アンケートの1の結果から、生徒・教員ともに9割以上の肯定的回答が得られたので、生徒の間には指導の効果が少しずつ現れており、概ね評価できる。ただ、4「大変そう思う」と回答した生徒が2割強しかおらず、最終評価までには、4の割合を50%以上にしていきたい。	指導の煩雑さを鑑み、クラス掲示1枚で済ませている場合があるが、このようなことが教員・生徒・親とも「少しそう思う」が最も多くなる原因と考えられる。昨年度の自動車での送迎ルールのように生徒全員に配布すればもっと良く伝わっていくことは予想するに難くないが、煩雑さは免れない。もう少し連絡方法を考える必要がある。	3	年度当初に各ホームルーム向けのプリントの扱いについて全職員にクラス掲示をお願いするなど、情報の周知徹底を図る必要がある。
		・規範意識と心豊かな人間性の醸成	アンケートの1の結果から、生徒・教員ともに9割以上の肯定的回答が得られたので、生徒の間には指導の効果が少しずつ現れており、概ね評価できる。	指導の煩雑さを鑑み、クラス掲示1枚で済ませている場合があるが、このようなことが教員・生徒・親とも「少しそう思う」が最も多くなる原因と考えられる。もう少し連絡方法を考える必要がある。	3	年度当初に各ホームルーム向けのプリントの扱いについて全職員にクラス掲示をお願いするなど、情報の周知徹底を図る必要がある。
	・交通安全指導の充実	中間評価は実施せず	残念ながら、年間の事故件数は10件を超えているし、賠償責任を伴う事故も発生している。対策を考えていきたい。	2	いちい信用金庫の安全教室を実施するなど、安全意識の醸成に努めていきたい。	
進路指導 (進路指導部) (各学年会)	生徒の希望進路の実現	・進路情報の収集・整理・検討と、ニーズに応えた進路情報の提供	9割近い肯定的評価ではあるものの、1、2年生では1割を超える否定的評価がある。1、2年生が求める進路情報とはいかなるものかを調べる必要がある。	模試結果等については、決まったフォーマットに従って分析やデータの蓄積ができていないものの、「キャリア」という観点での情報収集・提供はできていない。	3	低学年に向けた進路情報の提供に努めていく。
		・補習等の課外学習指導の充実	教員、生徒とも非常に高い肯定的評価である。	長期休業中も含めて、計画通りに補習を展開することができた。補習に対する生徒の意識も良好である。	4	勤務時間外の指導が多くを占めるため、時間的には現状が精一杯である。内容の精査や習熟度別展開などで、内容を濃くしていく必要がある。
安全指導 (保健部) (各学年会)	救急救命への取り組みと校内美化の推進	・心肺蘇生法、AED操作技術の習得	講習会参加生徒44名中、36名(83.7%)の生徒が十分に技術を習得できたと回答。教職員参加者29名(アンケート回答28名)内、12名(42.6%)がスムーズに実施できたと回答している。生徒の35名(79.5%)が心肺蘇生法講習経験があり、何度も受ける大切さを自由記述欄に記載していた。	「いざという時には、講習会で習ったことをできるようにしたい」という感想を多くの生徒が記述していた。また、「AEDトレーナーを使用して良かった」とも答えており、前向きに取り組む姿勢がみられた。	4	より多くの生徒、教員が心肺蘇生法講習会を受講する機会を設定したい。
		・生活環境と清掃に対する生徒の意識向上	十分に清掃しているか、学校はしっかり清掃指導をしているかの質問に8割以上の肯定的回答が得られた。しかし、「大変できた」との回答は共に約2割強しか得られていない。	昨年度よりも肯定的評価が増え、生徒が前向きに取り組む姿勢がみられた。また、教員の清掃指導についても、生徒から約9割近い肯定的評価があり、生徒と教員が共に清掃に対する意識が高くなっている。	4	引き続き、清潔な学習環境で生徒、教員共に過ごすことができるよう、全員清掃の大切さを伝えたい。
部活動 生徒会行事 (各学年会)	部活動成果の向上	・日々の練習の充実	中間評価は実施せず	アンケートの結果によると9割以上の生徒が前向きに部活動に取り組んでいる。今年度は尾張総体の総合で男子が準優勝、女子が優勝した。	4	引き続き部活動への参加を促すと共に、より活力のある学校生活を体感できるようにしたい。
		学校行事の充実と発展	・委員会活動の活性化と生徒の主体的な参加	中間評価は実施せず	委員会と生徒会執行部が協力して生徒会活動が進行するように心掛けた。多くの生徒が積極的に生徒会行事に取り組んでいる。	3
読書指導 (図書部) (各教科会)	積極的な図書館利用の推進	・生徒の読書推進	今年度6月までの貸出冊数は、757冊であった。一昨年度の886冊、昨年度の811冊からさらに減少した。来館者数も、昨年度よりやや減少している。	「図書館だより」「Library News」とともに、「読まない」生徒が昨年度よりも増加した。貸出冊数も、12月末までで一昨年度1708冊、昨年度1606冊から、今年度1443冊と減少している。	2	活字離れの進む中ではあるが、生徒の興味・関心を引くことのできるよう、図書の選定・広報など工夫していきたい。
		・利用しやすい図書館への工夫	中間評価は実施せず	総合学習(1年)、保健(2年)の授業での利用があった。必要とされる資料の提供もある程度はできた。図書館利用者は昨年度よりはやや減少したが、一昨年度並みである。	3	古い図書資料の整理、差し替え、配置の工夫などをし、より利用しやすい図書館としていきたい。
		・図書委員による行事活動の充実	はじめて図書委員になった生徒が多かったが、短い時間の中でテーマを設定し、資料を持ち寄り、工夫した展示ができた。	短い準備期間の中で、初夏の企画展時よりも手際よく取り組み、工夫した展示ができた。大部分の図書委員も充実した取り組みができたと感じ、来館者の評価も高かった。	3	生徒が図書館に足を運び、本に触れるきっかけとなるよう、行事内容の工夫、広報の充実をはかっていきたい。